

環研センターNEWS

令和3年11月号 山形県環境科学研究センター

今月の記事

- 【お知らせ】 気候変動適応セミナー／環境展…………… 1
- 【コラム】 森の緑はどんな緑？…………… 2
- 【事業報告】 アスベスト調査始めました／水環境学会東北支部セミナー…………… 3
- 【各部紹介】 環境企画部 / 【職員自己紹介】…………… 4

【お知らせ】 気候変動適応セミナー

近年多発している集中豪雨や、それに伴う洪水や土砂崩れなど、気候変動に起因する自然災害を身近なこととして感じている人も多いと思います。CO₂削減などを通して気候変動を抑制することに加え、今の状況を理解し、受け入れ、対応していくこともこれからは大事になっていきます。このようなことを気候変動への「適応」と言いますが、適応とは具体的にどのようなことか、一人ひとりができる適応策にはどういったものがあるか、など、山陽学園大学の白井教授に解り易く解説していただきます。興味のある方はぜひご参加ください。

https://www.pref.yamagata.jp/053001/kurashi/kankyo/management/kenkyuucenter/tekiou_seminar.html



令和3年度
山形県
気候変動適応セミナー
～ 気候変動へのもう一つの対策、適応とは ～

日時 令和3年 12月13日(月) 13:00～16:00 参加無料
村山総合支庁北村山地域農園用(5階講堂) 村山市横河田4-4-1

定員 先着 50名 (裏面を参照のうえ、事前申込を行ってください)

プログラム
13:05～13:20 「山形県気候変動適応センターの取り組み」
山形県気候変動適応センター(山形県環境科学研究センター) 渡邊 亮治
13:20～14:30 講演 「気候変動へのもう一つの対策、適応策とは」
講師：白井 信雄(山陽学園大学 地域マネジメント学部 教授) 
14:40～15:50 ワークショップ 「みんなで考える気候変動への適応」
ファシリテーター：下村 孝洋子、奥田 宗人(環境首都圏連携NPO全国ネットワーク) 水原 隆一(三好町環境推進ネットワーク)

新着コンテンツ
新着コンテンツ
新着コンテンツ
新着コンテンツ
新着コンテンツ
新着コンテンツ
新着コンテンツ
新着コンテンツ
新着コンテンツ
新着コンテンツ

共催 環境省環境政策NPOセンター事務局・特定非営利活動法人、環境市民
山形県気候変動適応センター
特定非営利活動法人、環境市民

【お知らせ】 やまがたハイブリッド環境展

「やまがたハイブリッド環境展」、もうご覧になりましたか？WebサイトのAゾーンには環境科学研究センターも出展しています！センターの業務や気候変動適応センターの紹介動画、PM2.5の1時間ごとの測定結果も見ることができますよ。ぜひご覧ください。



山形県環境科学研究センター

環境を見つめ、そして人づくりへ



山形県内の河川や大気の状態を測定しHPに掲載しています。

[河川の水質測定結果はこちらから](#)

[大気の測定結果はこちらから](#)

<https://www.yamagata-kankyouten.com/list/a-zone/exhibit/corporate10.html>
(大気測定結果へ) <http://www.yamagatapref-taikikanshi.jp/taiki/index.html>

コラム 森の緑はどんな緑？

わたしたちの住んでいる山形県は、どこの市町村からも山が見え、そして緑豊かなところ、といわれますが、その「緑」、果たしてわたしたちの見ている「緑」はどんな緑なのでしょう？ドローンで眺めるようにぐるっと見てみましょう。

まず里山へ。わたしたちのくらしの周辺にある森林を眺めてみると、やぶが続いてなかなか入りづらい森になっているところが多いように感じます。その中には、松枯れやナラ枯れで木が赤く見え、それが次第に白骨のように枯れ木が立っているところが見えています。そこでは松の木(アカマツ)が無くなり、ナラ類も無くなり、かつての松林や薪炭林として使われていた頃とは山の姿がまったく変わっていきます。松林は広葉樹の森へ、ナラ林はナラの無い森に変化するようです。

以前のように木が使われない山は、伐られずぼうぼうと生い茂っているため、やぶ状態で森の中に簡単には入れません。昔は行われていた柴刈りが今は行われていないためです。かつての里山は、日が射し風が通り抜け、すかすかで向こうが見える森だったと聞きます。

今度はそこから少し目をずらしていくと、ぽかんと口の開いた堤の上部や山裾に湿地が発達していて、たっぷりの水よりもびちゃびちゃしたところが好きな、ハッチョウトンボが飛んでいるのが見えます。ここはハッチョウトンボとともに、モウセンゴケやミミカキグサ類(絶滅危惧Ⅱ類)などがある貧栄養湿地が広がっているところのようです。サワギキョウやサワランなど湿地特有の植物に加え、キンコウカやノハナショウブも見えています。そのうち、ヨシなどの侵入によって栄養たっぷりの富栄養湿地に移ってしまうと、貧栄養湿地にあった生き物が消えていくのでしょ



ハッチョウトンボ♂



ハッチョウトンボ♀



ミミカキグサ



ムラサキミミカキグサ

続いて畑地から続く道端に目を向けると、美しい黄色のコスモスに似た花、オオキンケイギクが群生しています。きれいな花だからと、草刈りの時に残しているそうです。実は、北アメリカ原産のオオキンケイギク、特定外来生物のひとつになっています。人間の活動でよそから入ってきてしまい繁殖している生き物(植物)たちは、在来種(もともと日本にあった植物)や生態系に被害を及ぼす恐れがあり、また帰化してきた植物たちの天下になりかねないのです。もうそうなっているところもあるのです。



オオキンケイギク

ちょっとひと回り見てきましたが、わたしたちの見ている「緑」は、どんな緑も緑でいいのでしょうか。森に木がたくさんあって、野の花もいろいろあっていいね、と言い切れないところがあります。その緑はどんな緑か、関心をもって観てみたら、と思います。自然の中は、森の中は、どうなんだろうと。

いまあなたが見ている緑はどんな緑ですか。

【事業報告】 アスベスト調査始めました

工事現場からアスベストが漏れ出ていないかを確認するための調査として、アスベスト除去工事現場周辺の大気中繊維状物質（アスベスト含む）の濃度調査を始めました。

具体的な調査方法は、まずアスベスト除去工事区画を中心に周辺4箇所吸引採集装置（図-1）を設置して大気を吸引し、浮遊する物質をろ紙の上に集めます。次に集め終わったろ紙をセンターに持ち帰り、透明化处理し、最後に顕微鏡でろ紙上に一定の長さを持つ繊維状物質が何本あるかを見て計数します（図-2）。



図-1 吸引採集装置



図-2 繊維状物質計数中

大気中の繊維状物質（アスベスト含む）濃度が人体に影響無いレベルかを確認します。

アスベストが使用禁止となって15年以上経ちますが、現在も天井裏や壁の中にアスベストが残っている建物はたくさんあります。アスベストの有無を確認してから工事を行うこととなり、除去工事は「アスベスト除去工事中」の看板を掲示しています。



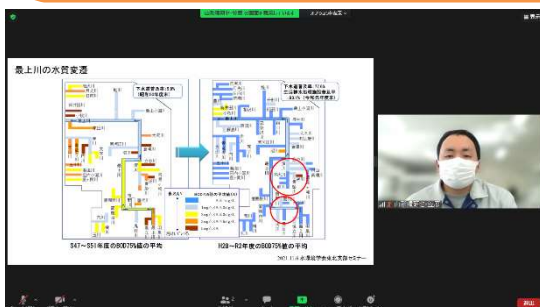
わかりますか？

【事業報告】 (公社)日本水環境学会東北支部セミナー

(公社)日本水環境学会東北支部の活動に当センターは山形県幹事として参画しています。令和3年度の東北支部セミナーを11月6日(土)に、【山形県の水環境の現状と保全、その食との関わり】をテーマとして、山形大学農学部と共同で開催しました。

新型コロナウイルス感染対策対応のためオンライン開催となりましたが、関東、中部圏を含む35名の参加があり、4題の講演と意見交換を行いました。

- | | |
|----------------------------------------------|--------------------|
| ① 「山形県の水環境の概要と課題」 | 山形県環境科学センター 笠原翔悟 |
| ② 「美しい山形・最上川フォーラムの取組」 | 美しい山形・最上川フォーラム 大泉茂 |
| ③ 「鶴岡市におけるビストロ下水道の取組」 | 鶴岡市下水道課浄化センター 松浦正也 |
| ④ 「漁港施設を活用したイワガキ蓄養試験
～天然イワガキの身入り向上を目指して～」 | 山形県水産研究所 工藤 充弘 |



センターからは、最上川をはじめとする山形県の水環境が大幅に改善していること、新たな水質課題(有機フッ素化合物、マイクロプラスチック)等について、笠原専門研究員が紹介しました。

各部紹介(環境企画部)

環境企画部は自然環境班と企画班で構成されています。自然環境班は毎日のように山に出掛けて希少種やクマの調査などを行い、一方、企画班は環境教育が主な仕事で、小学校などに行って出前講座をしたり水生生物調査の講師や手伝いをしています。

<クマ調査>

ツキノワグマの生息状況をカメラトラップ法により調査しています。クマの行動域の拡大による人身被害や農林業被害を防止し、地域個体群の安定的な維持を図るため、生息数を把握する調査です。

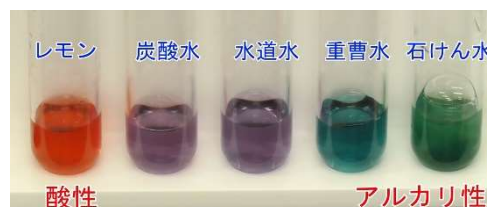


ツキノワグマは豊かな自然環境を象徴する種であり、その種が長い間にわたって安定的に生息数を維持することは、森林生態系を健全な状態にすることにつながるといわれています。

<出前講座>

小学校4年生を対象にした「身近な川の水質調査」、6年生を対象にした「水溶液の性質と酸性雨」など、学校の授業と連動した講座や、幅広い年代を対象とした地球温暖化やSDGsなどの講座を行っています。

また、普段捨ててしまう段ボールや牛乳パックを使ったリサイクル工作なども行っています。



紫キャベツを使った酸アルカリの実験

職員自己紹介

今年の4月に水環境部に赴任した東海林です。入庁して19年目になりますが、これまでの職場では、「上水道」「下水道」「工場排水指導」「地下水汚染対策」「廃棄物処理施設放流水対策」と、まさに【水・商売】を長く担当してきました。今年は「水質分析」の業務を担当することとなり、水の道、すなわち『水道』の極みに一步近づいているのかなと感じています。

水質分析では塩酸や硫酸などの聞き慣れた物質から4-アミノアンチピリンなどの聞き慣れない物質まで、様々な試薬を使いますが、一つ一つの試薬の特性を考えながら、これからも正確な分析に努めていきたいと思えます。



編集後記

だいぶ肌寒くなり、外に出掛ける仕事も少なくなってきました。そんな中、停滞していたブログやツイッター、最近ようやく更新頻度が上がってきました。ぜひ、そちらも見てみてください。「いいね」「リツイート」待ってます！！

《編集》山形県環境科学研究センター

住所 村山市楯岡笛田三丁目2-1 TEL 0237-52-3124 FAX 0237-52-3135

ホームページ<https://www.pref.yamagata.jp/053001/kensei/shoukai/soshikiannai/kankyoenergy/053001.html>

ツイッター<https://twitter.com/tunakanyamagata>



ホームページ ツイッター